

# ね、この本よんだ？

2015. 4~2016. 3

図書館で毎月発行している『としょかん通信』でご案内した  
「あたらしい子どもの本」のリストです。

絵本、読みもの、テーマ本の三つの柱にわかれた  
全部で49冊のブックガイドとなっており、  
この一年、職員が手にとって選んだおすすめの本が  
リストアップされています。

2008年度から始めて第8集になります。  
紹介した本は、図書館で貸出ご利用いただけます。

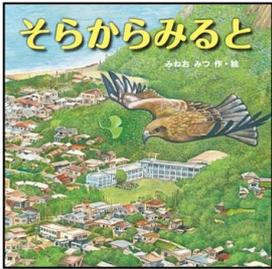
このリストが、子どもたち、そして大人のみなさんにとっても、  
素敵な本との出会いのきっかけになりますように。



久留米市立中央図書館

区分	NDC分類	内容	タイトル
絵本	913	日本の作品	『そらからみると』 『おべんとうはママのおてがみ』 『モモンガくんとおともだち』 『あーといってよあー』 『ぼくのたいせつなひ』 『としょかんへいこう』 『どろろんびょういんたいへんたいへん』 『はっきょいどーん』 『あとでって、いつ?』 『あるひ、いつものがくどうで。』 『おしゃべりこんぶ』 『ぼくはいったいなんやねん』
	933	海外の作品	『トヤのひっこし』 『おひめさまはねむりたくないけれど』 『めがねがなくてもちゃんとみえてるもん!』 『世界でいちばんすばらしいもの』 『はだかんぼ!』 『でんごんで一す』 『てっぺんねこ』 『かようびのドレス』 『ペネロペひめとにげだしたこねこ』
	929		『あかいはねのふくろう』
	950		『飛行士と星の王子さま』
	949		『ちいさなかいじゅうモッタ』
読みもの	913	日本の作品	『赤いペン』 『フラフラデイズ』 『たまごさんがころんだ!』 『あま〜いおかしにご妖怪?』 『それぞれの名前』 『すし食いねえ』 『たぬきがくるよ』 『小学生まじよとふしぎなぼうし』 『ニレの木広場のモモモ館』 『二日月』 『チポロ』 『チョコちゃんときゅうしょく』
	933	海外の作品	『マリゴールドの願いごと』 『リフカの旅』 『月にハミング』 『ぼくが本を読まない理由(わけ)』
	943		『クララ先生、さようなら』
テーマ本	616	図鑑	『大豆まるごと図鑑』
	407	科学	『水のふしぎあそび』
	910	日本文学	『夏目漱石、読んじゃえば?』
	629	自然保護	『日本の国立公園まるわかり事典』
	383	郷土料理	『にっぽんのおにぎり』
	289	伝記	『テレビを発明した少年』
	626	自然	『カボチャのなかにたねいくつ?』
	625	果物	『くだものと木の実いっぱい絵本』

『そらからみると』  
みねおみつ／作・絵  
PHP研究所



風によって空高く舞い上がった一枚の葉っぱは。この葉っぱと一緒に、日本の風景を上空から見下ろした絵本です。視界いっぱい広がる海に小さく浮かぶ緑の島、ぎっしり立ち並ぶビルやタワーに、細長く続く線路や道路。おっと、真横をヘリコプターが通っていきます。作者が小型飛行機で空から実際に見た風景を描きました。空の旅を味わえる一冊です。

『おべんとうはママのおてがみ』  
田島かおり／絵・文  
教育画劇



アキちゃんのママはおべんとう作りがとっても上手です。ソーセージのうちゅうじんや、うずらのたまごのねずみ、アキちゃんの苦手なにんじんもキラキラおほしさまに変身します。ママの気持ちがいっぱいあった素敵なおべんとう。毎日違うなかみに、お昼ごはんがわくわくするおはなしです。

『モモンガくんとおともだち』  
くすのきしげのり／作  
狩野富貴子／絵  
廣済堂あかつき



モモンガくんは、たかいたかい木の上に住んでいます。まだおともだちがいないモモンガくん。もりのみんなが楽しそうにあそんでいるのを、いつも木の上からそっと見ているだけでした。そんなある日、モモンガくんはみんなの「あれはなんだろう！」という声で目をさました。勇気を出して一歩踏み出すきもちを、そっとささえてくれる絵本です。

『あーとってよあー』  
小野寺悦子／作  
堀川理万子／絵  
福音館書店



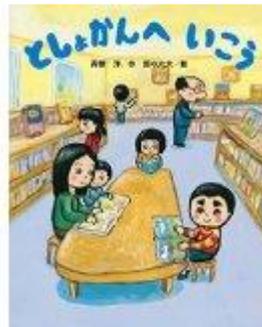
口をあけて、様々な「あー」の声を試してみる絵本。上を向いて「あーあー」、胸をたたいてぶるぶるふるふるふる「あ〜あ〜」、嬉しいときの「あー」、怒ったときの「あー!」。同じ「あー」でも、体や心の状態で、まったく異なる響きとなるのです。様々な色や形で描かれた「あー」を見ながら、一緒に声を出してみたい絵本です。

『ぼくのたいせつなひ』  
ママダミネコ／作・絵  
ひさかたチャイルド



きょうはたいせつなひ！あさごはんをしっかり食べて、したくをととのえたら、さあ、おでかけだ。花を買って、プリンを買って、おっとバスが目の前で行ってしまいました。でもだいじょうぶ、すぐにタクシーをつかまえて、おとうさんと二人、ぼくはあるところをめざします。おにいちゃんになるという特別な日の、ドキドキと喜びが伝わってくる絵本です。

『としょかんへいこう』  
斉藤洋／作  
田中六大／絵  
講談社



読みたい本を借りたり、気になることを調べたりできるとしょかん。としょかんではこの他にも、子ども向けの絵本の読み聞かせや、講演会を行ったりと、楽しい催しがたくさん。この絵本ではとしょかんの施設の紹介や本の探し方などを分かりやすく描いています。としょかんの利用のしかたやマナーを、クイズや探し絵・めいろをしながら楽しく学んでみませんか？

『どろろんびょういんたいへんたいへん』

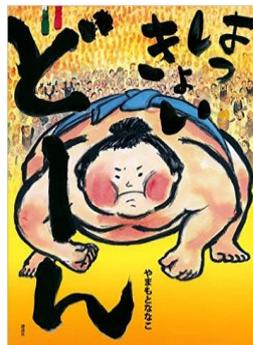
荻田澄子／作  
かとうまふみ／絵  
金の星社



どろろん病院は、昼間は閉まっていて夜になると開く、おばけのお医者さんです。頭のお皿が割れたかっぱや、虫歯になった吸血鬼、らくがきをされてしまったぬりかべなど、いろいろなおばけがやってきます。一日の仕事を終わらせたどろろん先生は、大好きなお風呂に入ろうとしましたが…。表情豊かなおばけたちがとってもかわいいお話です。

『はっきょいどーん』

やまもとななこ／作  
講談社



待ったなし！優勝が決まるすもうが一番のはじまりです。初めて挑むのは明の海。迎え撃つのは最強の横綱武留道山。土俵上の力士たちの迫力あるぶつかり合いを描いた絵本です。取り組みの一手一手が力強く描かれ、ページをめくる手にも思わず力が入ります。見返しにある決まり手82手、禁じ手8手も見どころです。

『あとでって、いつ？』

宮野聡子／作・絵  
PHP研究所



とっちゃんの家は、おそうざい屋さん。お店は忙しく、保育園から帰ってきたとっちゃんは、ひとりぼっちでおもしろくありません。一緒に遊んでほしくて声をかけても、パパもママも「あとで」ばかり。いっぱい我慢したとっちゃんは…。大切にしたい親子の時間を描いた絵本です。

『あるひ、いつものがくどうで。』

サトシン／作  
ドーリー／絵  
えほんの社



学校が終わると子どもたちは学童へ向かいます。春から新しく仲間入りしてドキドキしている1年生と、もう立派なお姉さん2年生が仲良くトランプで遊んだり、先生も一緒に三角ベースをしたり、楽しく過ごしています。毎日通う学童で、友だちと笑って泣いてけんかして、みんなで成長する姿に気持ちが温くなるおはなしです。

『おしゃべりこんぶ』

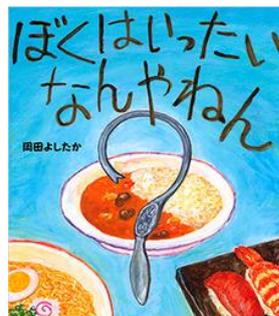
おかいみほ／作・絵  
フレーベル館



100人のおじいさんと100人のおばあさんが住んでいる町は、いつも静かでした。みんな、おしゃべりするのが好きではないのです。ある日、男の子がおじいさんに「おしゃべりこんぶ」をあげると、おじいさんは明るい顔になっておしゃべりはじめました。それを見た男の子は、町の人たちにもおしゃべりをしてほしいと思います。どうするのでしょうか？

『ぼくはいたいなんやねん』

岡田よしたか／著  
佼成出版社



長いこと使われていなかったため、自分がいたい何のための道具なのか忘れてしまった“ある道具”のお話です。銀色で細長くて、二股に分かれている「ぼく」。「どれもぼくと違うみたい。」「何かを食べるときに使うもんやと思うねんけど・・・」自分探しの旅にでた「ぼく」を軽快な関西弁で追いかけるユーモア絵本です。

## えほん(海外)

### 『トヤのひっこし』

イチンノロブ・ガンバトル／文  
バーサンスレン・ポロルマー／絵  
津田紀子／訳  
福音館書店



モンゴルの遊牧民の女の子トヤが、新しい放牧地を求めてひっこしの旅に出発します。ラクダや馬、山羊を連れて、高い山や砂漠を越え、旅は何日も続きます。途中、大雨が降った後、草原の空いっぱいに虹がかかった風景や、旅先で出会う人々の生活の様子など、モンゴルの大草原の自然や風習、文化が美しく描かれている絵本です。

### 『おひめさまはねむりたくないけれど』

メアリー・ルージュ／作  
パメラ・ザガレンスキン／絵  
浜崎梨絵／訳  
そうえん社



「わたしまだねむりたくないもん」。ひがおちてもなかなかねむりたくないおひめさま。そんなおひめさまに、おつさまとおきさきさまは、「それでもねるじゅんぴはしましようね」といい、「せかいじゅうのみんながねむるの？」とたずねるおひめさまにやさしくかたりかけていきます。ねむれない子に贈る、おやすみ前のやさしいおはなしです。

### 『めがねがなくともちゃんとみえてるもん!』

エリック・バークレー／作  
木坂涼／訳  
ブロンズ新社



主人公のペイジは、なんだか最近調子がよくありません。黒板の文字は見えにくいし、音楽の演奏も楽譜が見えにくくてぐちゃぐちゃ。見兼ねたお父さんとお母さんは、ある日ペイジをめいしゃさんのところへ。沢山あるめがねの中から、はたしてペイジは自分に合うめがねを見つけることができるのでしょうか。

### 『世界でいちばんすばらしいもの』

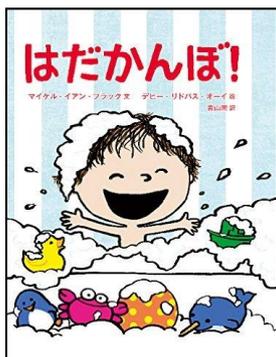
ヴィヴィアン・フレンチ／作  
アンジェラ・バレット／絵  
石井睦美／訳  
BL出版



王国の王さまとお妃さまは、とても大切にしている娘のルチア王女のお婿さんを探すことにしました。世界でいちばんすばらしいものを見せることができる若者が、王女にふさわしい。そう賢者に言われた王さまたちは、国じゅうにおふれを出します。世界でいちばんすばらしいものを見せることができる若者は、現れるのでしょうか。

### 『はだかんぼ!』

マイケル・イアン・ブラック／作  
デビー・リドバス・オーイ／絵  
青山南／訳  
ひさかたチャイルド



お風呂からあがって、そのままはしゃぎまわる男の子。パンツもシャツもくつしたもいらない。あっ、でもマントは欲しいかも。はだかんぼ、さいこう! 何をするにもはだかんぼ。あれれ、でもね、なんだか……。元気いっぱいの男の子とそれに手をやくお母さん。でも最後は、二人の表情に思わずにっこりしてしまいます。

### 『でんごんでーす』

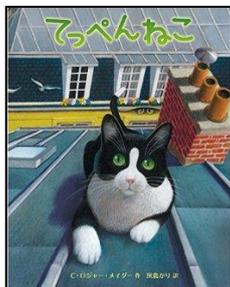
マック・バーネット／文  
ジェン・カラーチャー／絵  
林木林／訳  
講談社



「そろそろばんごはんだから帰っておいでと息子のピーターに伝えて」とお母さん鳥は近くにいた鳥の子に伝言を頼みます。頼まれた鳥の子は隣にいる別の鳥に伝えますが、その内容は少し違って…。電線の上止まっている鳥たちが伝えていくうちに、伝言はおかしなものに。お母さんの伝言は、無事にピーターまで届くのでしょうか?

『てっぺんねこ』

C. ロジャー・メイダー／作  
灰島かり／訳  
ほるぷ出版



フランスの美しい空と街並みを背景に、一匹の猫がのびのびと動き回る絵本です。パリのマンションに連れてこられたその猫は、バルコニーからこっそり抜け出し、近所の家々を冒険していきます。時には、屋根から落っこちたりもしますが、めげずに何度でも出かけていきます。ユーモアあふれる猫の表情も見所です。

『かようびのドレス』

ボニ・アッシュバーン／文  
ジュリア・デーノス／絵  
小川糸／訳  
ほるぷ出版



主人公の女の子はお気に入りのドレスが着られる火曜日が大好き。でも、ある日そのドレスの丈が短くなっていることに気づきます。かなしくて泣いていると、ママがやってきて「逆転の発想よ」といいドレスをチョキチョキ切ってミシンにかけます。するとお気に入りのドレスは…好きなものを大切にする女の子とお母さんの気持ちに、心があたたかくなるおはなしです。

『ペネロペひめとにげだしたこねこ』

アリソン・マレー／作  
美馬しょうこ／訳  
徳間書店



ペネロペひめは、ある日毛糸にじゃれつくこねこを見つけました。一緒に遊ぼうとすると、こねこはピンクの毛糸を体に巻き付けたまま逃げ出してしまいます。毛糸をあちこちに巻き付けながら、お城の中を走り回っていくこねこ。ペネロペひめと一緒にピンクの毛糸を指でたどって、こねこを追いかけて遊べる楽しい一冊です。

『あかいはねのふくろう』

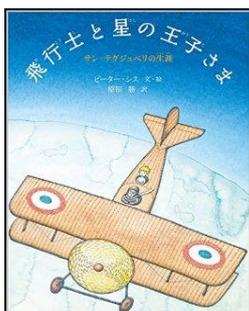
フェリドゥン・オラル／文・絵  
広松由希子／訳  
復刊ドットコム



生まれたばかりのふくろうぼうやは、早く両親のような赤い翼になって空を飛びたいと夢見ています。それを聞いたともだちのねずみが、ぼうやの羽を赤くするために、花や果物、毛糸など赤い材料を次々と持ってきます。深い夜の青に、鮮やかな赤が浮かび上がる、色彩の対比が美しい絵本です。

『飛行士と星の王子さま』

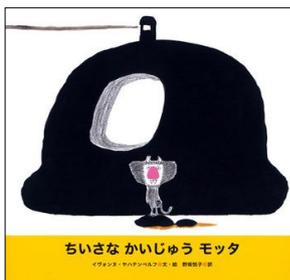
ピーター・シス／文・絵  
原田勝／訳  
徳間書店



皆さんは「星の王子さま」という作品を知っていますか？金髪の子が、自分の暮らしていた惑星を飛び出し遠く離れた星を冒険するおはなしです。この作品を書いたサン＝テグジュペリは飛行士でした。小さい頃から空を飛ぶことで頭がいっぱいで、十二歳の時には自分で飛行機を作るほどでした。そんな飛行機と共に生きた彼の生涯をこの絵本で読み解いてみませんか？

『ちいさなかいじゅうモッタ』

イヴァンヌ・ヤハテンベルフ／文・絵  
野坂悦子／訳  
福音館書店



ちいさなかいじゅうモッタは7人兄弟の末っ子。お兄ちゃんたちはみんな強くて大きくて、おどかしっこが大好きです。ちいさなモッタもお兄ちゃんたちをおどかしたいのですが、いくら叫んでも、足を踏みならしても、ちっとも怖がってくれません。お兄ちゃんたちに追いつきたいと末っ子が一生懸命頑張るおはなしです。

『赤いペン』  
澤井美穂／作  
中島梨絵／絵  
フレーベル館



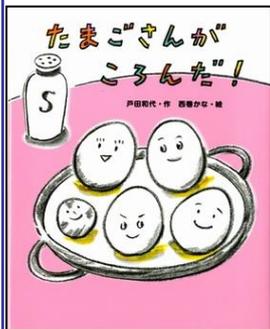
「そのペンは人間に何かを書かせて、いつの間にか消えてしまっただって」。赤いペンのうわさを調査していた中学生の夏野は、文学館の人たちやおしゃべりなアシスタントの協力を得て、そのペンを持っていた人たちの物語に触れていきます。実は、うわさを調べる夏野にも秘密にしていた物語があって…。これは“物語”を引き出しながら、人から人へと旅をした赤いペンの物語。

『フラフラデイズ』  
森川成美／作  
文研出版



小学生の雅は、フラダンス大会に参加するおばあちゃんといっしょにハワイへ行くことになりました。ところがフラダンスの会場で人違いをされ、車で知らない所へ連れていかれます。困っている雅を助けてくれたのが現地の日系の家族でした。雅は日系の人々とのふれあいの中でかつてハワイへ移住してきた日本人のことを知り、日本とハワイのつながりについて学んでいきます。

『たまごさんがころんだ!』  
戸田和代／作  
西巻かな／絵  
佼成出版社



「たまごだって、ぼうけんでできるんだ!」たまごにだってなりたいものや、ゆめがある。自由にうごけるようになるおまじないを教えてもらったたまごたちは、ゆめをかなえるためにぼうけんへとでかけます。さてさて、たまごさんたちのゆめはかなうのか、そしてそのゆめはどんなゆめなのか、みなさんもぼうけんにでかけてみませんか?

『あま〜いおかしにご妖怪?』  
廣田衣世／作  
佐藤真紀子／絵  
あかね書房



主人公の八太郎の家は200年続く老舗の和菓子店です。ある日、八太郎はおつかいを頼まれるのですが、その帰り道白い布が空を飛ぶ光景を目撃します。家に帰ってみると、先祖代々大切にしている和菓子工房の井戸からなにやら不穏な音が聞こえてくるし…。八太郎の周りで一体何がおこっているのか、読み進めるたびにドキドキする一冊です。

『それぞれの名前』  
春間美幸／作  
木村いこ／絵  
講談社



チカとユカは、顔も体型もそっくりな一卵性の双子。そのうえ、服装も髪型も常におそろいなので、よく名前を間違えられます。ユカはこのままでいいと思っているけれど、チカは、千代田君には自分がチカだと見分けてもらいたいと思っています。その千代田君は、自分の名前が気に入っていないようで、名前と呼ばれるのを嫌がっていました。みんなが気になる、自分の名前のお話です。

『すし食いねえ』  
吉橋通夫／著  
講談社



江戸の人気すし屋「与兵衛すし」の豆吉は、すしが何より好きで、おとっつあんとすしネタの試作に励む毎日を送っています。ある日、何者かに追われている若侍を助けたことから、思いがけない騒動にまきこまれることに。若侍をめぐって、はらはらの立ち回りが繰り広げられる合間にも、旬のすしが次々と紹介されていきます。豆吉を応援しながら思わずすしが食べたくなる時代劇です。

『たぬきがくるよ』

高科正信／作  
寺門孝行／絵  
BL出版



どんぐりをさがしてりすと  
おちゃをしたり、公園であ  
そんでいたら、いつのまに  
か、たこのすべり台が動き  
出して海の中で魚たちとあ  
そんでいたり。気がついた  
ら、ふっとおはなしのよう  
な世界に入ってあそんでも  
どってきている。  
そんなわかばのちょっと不  
思議な出来事を一緒にのぞ  
いてみませんか？もしかし  
たらあなたにも、そんな  
経験あるのかもしれない。

『小学生まじよのふしぎなぼうし』

中島和子／作  
秋里信子／絵  
金の星社



主人公のリリコはおばあちゃ  
んが大好き。いつものように  
部屋へ遊びに行くと、おばあ  
ちゃんがクローゼットから何  
かを探しているようで、部屋  
中が物であふれかえっていま  
した。一緒に片づけをしてい  
ると、クローゼットの奥から  
古ぼけた黒いぼうしが。この  
ぼうしはまじよのぼうしで、  
リリコは内緒でこっそり借り  
ることにしたのですが…。

『ニレの木広場のモモモ館』

高楼方子／作  
千葉史子／絵  
ポプラ社



ある土曜日の朝、ニレの木  
の下で偶然出会ったのは、  
5年生のモモとモカと4年  
生のカンタ。3人は出会っ  
たその日に、壁新聞「モモ  
モ館」を作ることに。新聞  
作りをしているうちに、  
替え玉作戦やどろぼう事件  
に関わることになり、リッ  
クんとコータという新しい  
仲間も増えて、にぎやかな  
毎日を過ごします。5人の  
声が聞こえてきそうな楽し  
い1冊です。

『二日月』

いとうみく／作  
丸山ゆき／絵  
そうえん社



小学4年生の杏に妹が生まれ、  
家族みんな喜びいっぱいだ  
ったのも束の間、妹に障害があ  
ることがわかります。  
妹の世話に追われる両親を前  
に杏は、妹が大好きな気持ち、  
自分をもっと見てほしい気持  
ち、妹の存在を恥ずかしく思  
う気持ちを抱えます。悩みな  
がらも、家族と共に成長して  
いく杏の1年を描いた物語で  
す。

『チポロ』

菅野雪虫／著  
講談社



仲間内では一番背も低く、  
やせっぽちで狩りも下手  
な少年チポロ。けれど、狩  
りで大物を仕留めてからと  
いうもの、自信をつけたチ  
ポロは変わっていきます。  
そんななか、村に魔物が  
やってきて、姉のように優  
しくしてくれていたイレ  
シュを連れ去って行ってし  
まって…。小さかった少年  
が、一人前の大人へと成長  
していく物語です。

『チョコちゃんときゅうしょく』

椰月美智子／著  
そうえん社



チョコちゃんはきゅうしょく  
の時間があまり好きではあり  
ません。なぜなら、好ききら  
いが多くて食べるのが遅いか  
らです。毎日お昼休みになっ  
ても一人のこってきゅうしょ  
くを食べています。  
ある日、クラスで一番早く食  
べるだいすけ君のまねをして、  
きゅうしょくを食べようと思  
います。はたしてチョコちゃ  
んは早く食べることができる  
のでしょうか？

『マリゴールドの願いごと』

ジェーン・フェリス／作

ないとうふみこ／訳

池上小湖／訳

小峰書店



家出をしたとき6歳だったクリスチャン。森に住むトルのエドのもとで16歳に成長しました。ある日、お城に住む姫マリゴールドとメル友になりました。ただしEメールではなく、伝書鳩を使ったPメールです。その頃、お城では王妃が恐ろしいことを企んでいました。エドから自立し、お城で働き始めたクリスチャンはマリゴールドを守ることができるのでしょうか？

『リフカの旅』

カレン・ヘス／作

伊藤比呂美・西更／訳

理論社



1919年、ロシアに住むユダヤ人の少女リフカは、ロシア兵の迫害から逃れるために家族でアメリカへと旅立ちます。ところが途中、家族と離れ離れになり、一人ぼっちでアメリカをめざすことに。アメリカまでの長い長い旅路の中、強い意志と希望を持ち続ける少女の言葉に励まされます。著者が親族の実話を元に書きあげ、アメリカ児童文学協会のフェニックス賞を受賞した作品です。

『月にハミング』

マイケル モーパーゴ (著)

杉田 七重 (訳)

小学館



第一次世界大戦の頃、イギリスの無人島で一人の少女が発見されました。少女は記憶喪失で言葉を話していませんでしたが、近くの村の家族が大切に受け入れ、少しずつ回復をみせていきます。ところがある日、少女が敵国ドイツ人ではないかといううわさが広がり、家族は窮地に立たされます。少女を守るために家族が奮闘を重ねた結果、少女の謎が1つずつ解き明かされていくのです。

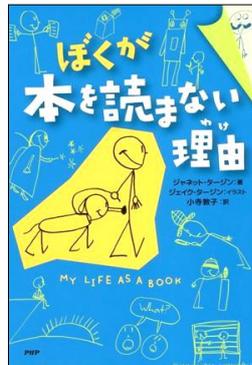
『ぼくが本を読まない理由(わけ)』

ジャネット・タージン／著

ジェイク・タージン／イラスト

小寺敦子／訳

PHP



●本を読むのが大きらいな少年デレク。せっかくのお休みに読書感想文の宿題なんて、先生、あんまりだよ！家の屋根裏に逃げ込んだデレクは、大切に保管してある10年前の新聞記事を見つけます。そこには、「海岸で女子大生おぼれる」という見出し。ワクワクして事件の調査に乗り出したデレクでしたが、自分に関係する事件だったと知って…

『クララ先生、さようなら』

ラヘル・ファン・コーイ／作

いちかわなつこ／絵

石川素子／訳

徳間書店



四年生のユリウスは、クララ先生が退院して学校へ来る日を楽しみにしていました。なのに、もう病気は治らなくて、長くはないのだと知らされます。先生に何をしてあげられるのか、子どもたちはお別れのプレゼントをあげようと一生懸命考えます。子どもたちがつくった最高のプレゼントは一体何なのでしょう？

『大豆まるごと図鑑』

国分牧衛／監修  
金の星社



大豆は私たちの食卓に様々な形で使われています。枝豆や納豆をはじめ、豆腐やしょうゆ、みそなどは大豆を加工して作られています。生の大豆は苦みやしびみがあるので、昔の人は煮たり発酵させたりと加工を重ねてきました。この本では大豆の歴史から、栽培の仕方、加工品の作り方まで紹介しています。小学三年生の教科書に載っている大豆について、親子で学んでみませんか？

『水のふしぎあそび』

立花愛子・佐々木伸／著  
偕成社



水って不思議。さわるとすぐに形が変わる。入れるものの大きさで、同じ量なのに長さも太さも変わる。コップの水を投げると、地面に落ちるまでにいろいろな形になる。コップの奥に絵を置いて、水を入れると反対向きに見える。まるで手品。水を使った工作をしたり、模様を描いたり、遊びを通して水のことを知ることができる本です。

『夏目漱石、読んじゃえば？』

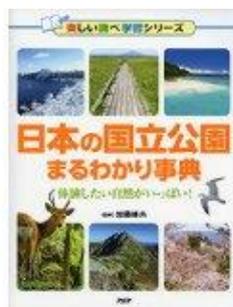
奥泉光／著  
河出書房新社



なんだか文学作品って難しそう。文学作品に限らず、そんな風にちゅうちょしちゃうことってありませんか？この本はいろんな読み方を通して漱石の作品が読めるようになり、最終的には他の小説も面白く読めるようになっておう、というものなんです。こんな本の読み方もいいんだと、難しそうなお話でも読むのがちょっと楽しくなるかもしれません。

『日本の国立公園まるわかり事典』

加藤峰夫／監修  
PHP研究所



皆さんは国立公園がどんな所か知っていますか？日本には全部で32か所の国立公園が存在し、すばらしい自然環境を、誰もが楽しむための場所として国が管理しています。中には東京都より広い面積をもつ場所や、温泉やマングローブ林のある公園もあります。その公園でしか見ることのできない動植物など、それぞれに特徴豊かな日本の国立公園について、この本を読んで魅力に触れてみませんか？

『にっぽんのおにぎり』

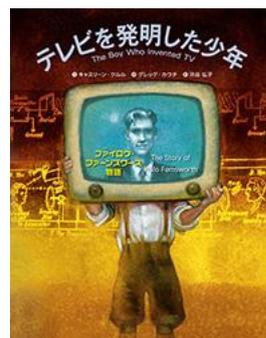
白央篤司／著  
理論社



「おむすびころりん」や「さるかに合戦」など、昔話でもおなじみのおにぎり。この本では、47都道府県それぞれの土地の食べものでアレンジしたおにぎりが紹介されています。宮城県のはらこめしのおにぎりや、三重県の牛肉の時雨煮おにぎり、奈良県の奈良漬けのおにぎり、福岡県の辛子明太子のおにぎり。あなたの好きなおにぎりは、どんなおにぎりですか？

『テレビを発明した少年』

キャスリーン・クルル (著)  
グレッグ・カウチ (絵)  
渋谷弘子 (訳)



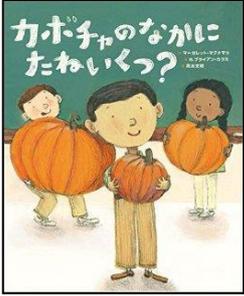
わたしたちの身近にあるテレビ。みなさんは、誰が発明したか知っていますか？世界で初めてテレビの画像を送ることに成功した人は、ファイロウ・ファーンズワースという人物でした。なんと、その方法を思いついたのは14歳の時。ジャガイモ畑でひらめいたというのです。これは、その少年がテレビをつくるまでをいきいきと描いたおはなしです。

『カボチャのなかにたねいくつ?』

マーガレット・マクナマラ／作

G.ブライアン・カラス／絵

真木文絵／訳  
フレーベル館



ある日、ティフィン先生が学校に3つのカボチャを持ってきます。色も、形も、大きさも違うこれらのカボチャ。中にたねはいくつ入っているのか、みんなはカボチャからたねを取り出して調べてみることに。たねを数えているうちに、チャーリーはあることを発見します。自分で考え、自分でカボチャをくり抜き、答え合わせをすることで、考えることが楽しくなる絵本です。

『くだものと木の実いっぱい絵本』

ほりかわまりこ／作

三輪正幸／監修

あすなろ書房



グレイプフルーツの名前の由来は？晩白柚の切り方は？猫が好きなくだもの木は？いろいろなくだものや木の実が季節ごとに紹介されています。梅干しや栗の渋皮煮、りんごのタルト・タタンやバナナのソテーの作り方、マンゴーの植え方、果樹農家のお仕事など、くだもの魅力がたっぷり詰まった美味しい一冊です。